

2021年度 研究センター事業報告書

研究センター名	中東・イスラーム研究センター
---------	----------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

■当センターの設置とその目的

「中東・イスラーム研究センター（Center for Middle Eastern and Islamic Studies, CMEIS[シーメイス]）」は、2019年10月1日に設置され、その目的は、立命館大学の総合私立大学としての強みを最大限に活かし、多様な学問的背景を持ったスタッフの力を結集することで、①学際性を特長とする総合的な中東・イスラーム研究を推進していくこと、そして、②最先端の研究の追求を通して、中東・イスラームに関する総合的な知を備えた次世代の研究者・専門家の育成に取り組むこととされた。現状、(1)政治・国際関係、(2)文化・ジェンダー、(3)歴史・広域ネットワーク、(4)社会・経済システムの4つのユニット(研究領域)を組織し、個別の研究の推進に取り組んでいる。

■2021年度の活動

①につき、昨年度より継続する新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による研究・調査活動の制約ゆえに、研究成果の出版や研究発表、研究会などの開催に注力した。主たる研究成果は以下のとおりである。

出版

- ・鳥山純子編著『フィールド経験からの語り』(明石書店、2021年6月)の刊行
- ・鳥山純子『私らしさの民族誌:現代エジプトの格差、欲望、女性』(春風社、2022年3月)の刊行
- ・渡邊駿『現代アラブ君主制の支配ネットワークと資源分配—非産油国ヨルダンの模索—』(ナカニシヤ出版、2022年2月)の刊行
- ・ハシヤン・アンマール『イスラーム経済の原像—ムハンマド時代の法規定形成から現代の革新まで—』(ナカニシヤ出版、2022年3月)の刊行
- ・CMEIS Report を2号刊行

研究会などの開催

- ・CMEIS Book Launch を計4回オンライン開催
- ・オンラインシンポジウム「中東・イスラーム研究の課題と展望:ポストコロナ時代へ向けて」を主催(2022年1月)
- ・オンライン研究会「現代中東研究コロキウム研究会」を計2回主催(2022年1月、3月)
- ・「20年目の9.11を超えて:グローバル社会、イスラーム世界、ポスト・テロ時代を眺望する」を主催(2021年9月)

②について、主たる成果は以下のとおりである。

- ・米田優作(大学院生)「書評 大川玲子著『リベラルなイスラーム—自分らしくあるための宗教講義』『CMEIS Report』6, 2021.
- ・上記オンラインシンポジウム「中東・イスラーム研究の課題と展望」において若手研究者に発表の機会を提供
- ・メンバーの科研費をはじめとする各研究予算・プロジェクトにおいて若手研究者に発表の機会を提供
- ・様々なバックグラウンドを有する所属メンバーより若手研究者に対して研究上の助言を適宜提供

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2022年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
センター長	末近 浩太	国際関係学部	教授
運営委員	阿良田 麻里子	食マネジメント学部	教授
	馬場 多聞	文学部	准教授
	吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部	教授
	小杉 泰	立命館アジア・日本研究機構	特別招聘研究教員(教授)
	嶋田 晴行	国際関係学部	教授
	鳥山 純子	国際関係学部	准教授
	山下 範久	グローバル教養学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	黒田 彩加	立命館アジア・日本研究機構	特別招聘研究教員(准教授)
	ハシヤン アンマール	立命館アジア・日本研究機構	特別招聘研究教員(准教授)
	小澤 一郎	文学部	准教授
	フセイン ラシット	グローバル教養学部	准教授
	アシャデオノ フイトリオ	政策科学部	助教
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員		
	補助研究員・リサーチアシスタント		
	大学院生		
	学振特別研究員 (PD・RPD)	池端 露子	立命館大学
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)			
客員協力研究員	円城 由美子	衣笠総合研究機構	客員研究員
	アブハジアル リハーブ	中東・イスラーム研究センター	客員研究員
	渡邊 駿	京都大学高等教育研究開発推進センター	研究員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員	計 17 名	(うち学内の若手研究者 計 1 名)	

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2022年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	末近浩太	『教養としての中東政治』	単編・共著	2022年3月	ミネルヴァ書房	今井宏平（編）	xii+244pp
2	末近浩太	「紛争はなぜ起こるのか——シリア内戦と「イスラーム国」から考える——」	共著, 分担執筆	2021年4月	ミネルヴァ書房、『プライマリー国際関係学』	足立研幾・板木雅彦・白戸圭一・鳥山純子・南野泰義（編）	pp. 167-185
3	末近浩太	「はじめに」	共著, 分担執筆	2021年9月	ミネルヴァ書房、『インフォーマルな政治制度とガバナンス（日本比較政治学会年報第23号）』	日本比較政治学会（編）	i-x
4	末近浩太	「『民主的』な中東を目指して——イスラームと民主主義」	共著, 分担執筆	2021年7月	ミネルヴァ書房、『中東・イスラーム世界への30の扉』	西尾哲夫・東長靖（編著）	pp. 269-278
5	山下範久	「歴史的ディスコースにおける資本主義」	共著, 分担執筆	2021年12月	東京大学出版会、『人の資本主義』	中島隆博（編）	pp. 89-115
6	鳥山純子	「グローバル化とジェンダー」	共編・分担執筆	2021年4月	ミネルヴァ書房、『プライマリー国際関係学』	足立研幾・板木雅彦・白戸圭一・鳥山純子・南野泰義（編）	pp. 131-146
7	鳥山純子	『フィールド経験からの語り』	単編	2021年6月	明石書店	鳥山純子（編著）	288pp
8	鳥山純子	『私らしさの民族誌：現代エジプトの格差、欲望、女性』	単著	2022年3月	春風社	--	432pp
9	鳥山純子	「『あるけれど無い』リッブーエジプト都市部のユビキタスな「ローカルフード」」	共著, 分担執筆	2022年3月	春風社、『嗜好品から見える社会』	大坪玲子・谷憲一（編）	pp. 119-143
10	小杉泰・池端路子	『現代人のためのイスラーム入門：クルアーンの真髄を解き明かす12章』	共訳	2021年7月	中央公論新社	ガーズィー・イブン・ムハンマド	509pp
11	池端路子	「<コラム15>イスラーム協力機構の役割」	共著, 分担執筆	2021年7月	ミネルヴァ書房、『中東・イスラーム世界への30の扉』	西尾哲夫・東長靖（編）	pp. 329-330
12	嶋田晴行	「復興への日本の貢献—外交と安全の間で」	共著, 分担執筆	2021年10月	明石書店、『アフガニスタンを知るための70章』	前田耕作・山内和也（編著）	pp. 350-354
13	渡邊駿	「<コラム10>君主制とイスラーム」	共著, 分担執筆	2021年7月	ミネルヴァ書房、『中東・イスラーム世界への30の扉』	西尾哲夫・東長靖（編）	pp. 225-226
14	渡邊駿	『現代アラブ君主制の支配ネットワークと資源分配—非産油国ヨルダンの模索—』	単著	2022年2月	ナカニシヤ出版	--	v+319pp
15	小澤一郎	「イスラーム世界と軍事上の近代：軍事改革をどう捉えるのか」	共著, 分担執筆	2022年1月	ミネルヴァ書房、『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』	吉澤誠一郎(監修)・石川博樹(編著)	pp. 218-219
16	小杉泰	「イスラーム過激派は、いかに勃興したか——政治変動とテロのあいだで」	共著, 分担執筆	2021年7月	ミネルヴァ書房、『中東・イスラーム世界への30の扉』	西尾哲夫・東長靖（編）	pp. 227-236
17	ハシャン・アンマール	『イスラーム経済の原像—ムハンマド時代の法規定形成から現代の革新まで—』	単著	2022年3月	ナカニシヤ出版	--	ix+260pp
18	円城由美子	「対イラク支援——続く紛争との闘い」	共著, 分担執筆	2021年8月	ミネルヴァ書房、『日本の国際協力 中東・アフリカ編：貧困と紛争にどう向き合うか』	阪本公美子、岡野内正、山中達也(編著)	pp. 52-60
19	阿良田麻里子	項目「マレー語・インドネシア語」	単編, 分担執筆	2022年1月	丸善出版、『世界の公用語辞典』	庄司博史(編)	pp. 64-69

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	末近浩太	「イスラーム主義とは何か：政治と宗教の関係を考える（連載「イスラーム主義を読む」(1)）」	単著	2021年8月	立花書房、『治安フォーラム』9月号	--	pp. 47-55	無
2	末近浩太	「ジハード主義とは何か：宗教と暴力の関係を考える（連載「イスラーム主義を読む」(2)）」	単著	2021年9月	立花書房、『治安フォーラム』10月号	--	pp. 40-48	無
3	末近浩太	「「文明の衝突」の正体を見極める：「イスラーム教徒によるテロ事件」の構造とは」	単著	2021年9月	PHP 研究所、『Voice』10月号	--	pp. 116-123	無
4	末近浩太	「グローバル・ジハードの虚実：脅威の正体を見極める（連載「イスラーム主義を読む」(3)）」	単著	2021年10月	立花書房、『治安フォーラム』11月号	--	pp. 57-66	無
5	末近浩太	“2019 Opinion Poll in Libya: Sampling Method and Descriptive Statistics”	共著	2021年11月	新学術領域研究「グローバル関係学」、「Relational Studies on Global Crises」 Online Paper Series, No. 14, Research Report No. 7	山尾大	pp. 1-18	無
6	末近浩太	書評「エリカ・フランツ（上谷直克・今井宏平・中井遼訳）『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』（白水社、2021年）」	単著	2021年12月	国家安全保障学会、『国際安全保障』第49巻第3号	--	pp. 120-123	無
7	末近浩太	「「中東世論調査（シリア 2021-2022）」単純集計報告」	共著	2022年2月	現代中東政治研究ネットワーク、『CMEPS-J Report』No. 58	青山弘之・浜中信吾・高岡豊・山尾大・錦田愛子・今井宏平・溝津正季	--	無
8	末近浩太	「「中東世論調査（リビア 2019）」単純集計報告書」	共著	2022年2月	現代中東政治研究ネットワーク、『CMEPS-J Report』No. 59	山尾大	23pp	無
9	末近浩太	「レバノン・ヒズブッラーの「二正面抵抗」のフレーミング：ハサン・ナスルッラー書記長演説の計量テキスト分析」	単著	2022年3月	日本中東学会、『日本中東学会年報』第37-II号	--	pp. 31-59	有
10	末近浩太	「中東政治研究におけるイスラーム主義の諸相：「方法論的セキュラリズム」を超えて」	単著	2022年3月	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター、『イスラーム世界研究』第15号	--	pp. 205-221	有
11	馬場多聞	「回顧と展望 イスラーム時代」	単著	2021年5月20日	公益財団法人史学会、『史学雑誌』、130巻5号	--	pp. 295-299	無
12	馬場多聞	『「地中海世界の中世史」を語る』	単著	2022年3月13日	立命館大学中東・イスラーム研究センター、『CMEIS Report』No.7	--	--	無
13	山下範久	書評「紹介：C.H.アレクサンドロヴィッチ著（D.アーミティジほか編／大中真ほか訳）『グローバル・ヒストリーと国際法』（日本経済評論社、2020年 xii+281ページ）」	単著	2021年12月	日本貿易振興機構アジア経済研究所、『アジア経済』62巻4号	--	pp. 132-133	有
14	黒田彩加	“Modern Statehood, Democracy, and Women's Political Rights: The Reconstruction of	単著	2021年	日本オリエント学会、『Orient: Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan』(56)	--	pp. 121-140	有

		Political Thought in Egyptian Moderate Islamic Trend.”						
15	池端蒔子	「＜研究報告＞宗教復興以降の国際機構と国際政治—ヨルダンとイスラーム諸国がめざす新パラダイム—」	単著	2021年6月	立命館大学アジア・日本研究所、『立命館アジア・日本研究学術年報』第2号,	--	pp. 47-52	有
16	渡邊駿	「アラブ諸国とシリアの関係正常化をめぐる動向—ヨルダン・シリア関係からの視座」	単著	2021年11月	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター、『中東動向分析』第20巻第7号	--	pp. 1-7	無
17	小澤一郎	「海を渡るアフガン人：一九・二〇世紀転換期のオマーン湾沿岸地域におけるアフガン人の交易活動」	単著	2022年3月	立命館史学会、『立命館史学』41号	--	pp. 95-120	無
18	Huseyin Rasit	“Competing Revolutionaries: Legitimacy and Leadership in Revolutionary Situations”	単著	2021年06月	Wiley、『The British Journal of Sociology』,72(4)	--	pp. 1092-1012	有
19	小杉泰	「イスラーム法（シャリーア）の構造的な理解と現代イスラーム世界の政治・経済の新動向：イスラーム法源学を手がかりとした解析視座の確立をめざして」	単著	2021年7月	立命館大学アジア・日本研究所、『立命館アジア・日本研究学術年報』第2号	--	pp. 66-67	有
20	小杉泰	「イスラーム主義の変遷と今後の展望」	単著	2021年9月	公益財団法人中東調査会、『中東研究』542号	--	pp. 18-29	無
21	小杉泰	「シャリーアの典拠における命令言辭の多様性とその法解釈：イスラーム法源学におけるテキスト解釈をめぐる考察」	単著	2022年3月	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター、『イスラーム世界研究』第15号	--	pp. 180-204	有
22	円城 由美子	イラクにおける国内避難民の移動と避難状況	単著	2022年3月	『大阪女学院大学紀要』第18号	--	pp. 88-99	有
23	吉川卓郎	"Regime Security in Jordan Revisited: New Challenges to the Monarchy's Resilience After the Arab Spring"	単著	2021年5月	SAGE Publications、『Contemporary Review of the Middle East』Vol. 8	--	pp. 290-306	有
24	吉川卓郎	「アブドゥッラー2世体制とヨルダンの社会運動 COVID-19感染拡大で可視化された諸問題」	単著	2022年1月	公益財団法人中東調査会、『中東研究』543号	--	pp. 83-96	無
25	アシャデオノ・フィトリオ	Towards sustainable rural communities: Utilizing the terroir approach in agro-ecology	単著	2021年6月	Proceedings International Conference on Science and Technology (ICST) 2	--	pp. 102-109	有
26	阿良田麻里子（編）	オンライン国際シンポジウム「Beyond コロナ時代の食と農」プロシーディングス	共著	2022年3月	立命館大学食マネジメント学会、『立命館大学食科学研究』7号	23名	pp. 355-471	無
27	阿良田麻里子	「文献紹介（公財）味の素食の文化センター（企画/原案）池谷和信（編集）『食の文明論：ホモ・サピエンス史から探る』（農山漁村文化協会、2021年）」	単著	2021年11月	一般社団法人日本家政学会食文化研究部会、『会誌食文化研究』17号	--	--	

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	末近浩太	“Critical Geopolitics of the Syrian Conflict: The Territorial Partitions of <i>Bilad al-Sham</i> and Beyond”	2021年5月	Panel 6B “Critical Perspectives on Eastern Mediterranean Security,” The 23rd Mediterranean Studies Association Annual International Congress, University of Gibraltar, GIBRALTAR (Online)	--
2	末近浩太	“Israeli Zionists or Syrian Takfiris: A Quantitative Analysis of Hezbollah’s Framing of Resistance”	2021年7月	Panel RC42.04 “Evolving Methodologies in the Study of Middle East Politics,” The IPSA 26th World Congress of Political Science, “New Nationalisms in an Open World,” Lisbon, PORTUGAL (Online)	--
3	末近浩太	“Hezbollah’s Framing of Resistance: A Quantitative Text Analysis of Hasan Nasrallah’s Speeches, 2005-18”	2021年10月	The KAMES-AFMA International Conference, Seoul, KOREA (Online)	--
4	末近浩太	“Hezbollah’s Framing of the Two-front Resistance: A Quantitative Analysis of Hasan Nasrallah’s Speeches”	2021年11月	P6596 “Armed Non-State Actors and their Quest for Legitimacy,” Middle East Studies Association (MESA), The 55th Annual Meeting, Montreal, CANADA (Online)	--
5	末近浩太	「『地域』から時空論を考え(てみ)る」	2021年9月	科学研究費補助金・基盤研究(B)「グローバル関係論の時間論的基礎付けのための比較理論研究」研究会	--
6	末近浩太	「『アラブの春』後のリビアにおける国家再建と民主化：2019年実施の世論調査の結果から」	2021年11月	現代中東研究コロキウム(北海学園大学)	山尾大
7	末近浩太	「『イスラーム主義』と問い直す：中東・イスラーム世界における政教関係の動態的把握に向けて」	2021年11月	科学研究費補助金・基盤研究(A)「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」政治研究会「現代イスラーム政治と宗教をめぐる視点と枠組み」科学研究費補助金・基盤研究(B)「現代中東における政治と宗教：『アラブの春』以降のムスリム同胞団を事例に」合同研究会(オンライン)	米田優作
8	末近浩太	「イスラーム革命防衛隊の海外派遣をめぐるイラン市民の認識：2021年サーベイ実験の結果から」	2022年3月	科学研究費補助金・新学術領域研究(研究領域提案型)計画研究B02「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」研究会(オンライン)	千坂知世・山尾大
9	馬場多聞	「中世のイエメンとインド洋における移動」	2021年8月	学術領域変革研究(A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築」計画研究班B01「イスラーム共同体の理念と国家体系」研究会	--
10	馬場多聞	『『地中海世界の中世史』』	2021年9月	CMEIS Book Launch(オンライン)	小林功, 高田良太, 阿部俊大, 澤井一彰
11	馬場多聞	「祝福されし去勢者：新出写本『ハーディムやハスイーの美質と美德の書』の検討」	2021年12月	2021年度九州史学会大会	辻大地
12	黒田彩加	「現代イスラーム思想における国家権力とジェンダー：家族、公の秩序、勸善懲悪」	2021年10月	2021年度第2回 iAIG(インターアジアなイスラームとジェンダー)研究会「イスラームとジェンダーをめぐる政治と国家」、立命館大学(オンライン)	--

				ン)	
13	黒田彩加	“Global Islamic Intellectuals Reconstructing the Ideals upon the Ruins of Modernity: The Case of Khaled Abou El Fadl”	2021年12月	the 19th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu (Hybrid: Onsite + Online)	--
14	黒田彩加	「ムスリム知識人が問い直す伝統と近代：エジプト的な宗教認識を軸として」	2022年1月	第13回駒場中東セミナー、東京大学中東地域研究センター (UTCMES) (オンライン)	--
15	黒田彩加	「アメリカのイスラーム：文化の対話？」	2022年12月	2021年度立命館大学ライスボールセミナー、立命館大学 OIC リサーチオフィス (オンライン)	--
16	山下範久	「世界=生態論のメタ研究プログラム」	2021年11月	比較文明学会 第39回大会	--
17	池端蒔子	“The Islamic Face of a Pro-western Arab Monarchy, Jordan: An Analysis of Works of Its Royal Hashemite Family”	2021年6月	The British Society for Middle Eastern Studies (BRISMES) Annual Conference 2021、(Online)	--
18	池端蒔子	「『宗教の国際政治』というアリーナ創出—規範形成に挑戦するヨルダンとイスラーム諸国—」	2021年10月	日本国際政治学会・中東分科会、(オンライン)	--
19	池端蒔子	“Collective Ijtihad and Consensus Making: Evaluating the Roles and Significance of International Islamic Legal Academics”	2021年12月	the 19th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu (Hybrid: Onsite + Online)	--
20	池端蒔子	「宗教復興後の国際規範と国家の正統性—イスラーム協力機構の事例から—」	2021年12月	笹川平和財団「現代若手中東研究会」第1回「現代中東の国家と宗教」(オンライン)	--
21	渡邊駿	“Jordan’s Decentralization After 2015: Central Control under Weak Intermediaries.”	2021年7月	2021 BRISMES Annual Conference “Knowledge, Power and Middle Eastern Studies,” University of Kent, UK (Online)	--
22	渡邊駿	“Contestation over the Discourse of “Moderate” Islam: Politics of Islamic Legitimation in the Arab Monarchies.”	2021年7月	2nd Tsinghua Area Studies Forum, IIAS, Tsinghua University, China (Online)	--
23	渡邊駿	「アブラハム合意後のヨルダン情勢」	2022年1月	2021年度第7回情勢分析報告会 (日本エネルギー経済研究所 中東研究センター) オンライン	--
24	渡邊駿	「ヨルダンの権威主義政治と国家性—地方分権改革を事例として」	2021年10月	日本国際政治学会 2021年度研究大会 オンライン	--
25	渡邊駿	「君主制型権威主義体制における正統性の諸側面—現代アラブ君主制のイスラーム的正統性をめぐって—」	2021年6月	日本比較政治学会 2021年度研究大会 オンライン	--
26	小澤一郎	“Iranians’ Consumption of Korean and Chinese Historical Dramas”	2021年5月	HK+ MegaAsia International Conference: The Multi-layered Dialogue between the Muslim Society and East Asian Cultures	--
27	小澤一郎	「『現地権力』の尊重：ペルシア湾におけるイギリスの反武器交易運動の論理」	2022年3月	ワークショップ「海洋の縄張り化の近代」	--
28	Huseyin Rasit	“An Integrated Theory of Ideology”	2021年8月	American Sociological Association Annual Meeting, (Online)	--
29	Huseyin Rasit	“Revolutionaries, Nationalists, Jihadists: Ideology and Politics in the 21st-Century Middle East”	2021年9月	GDC Online Brown Bag Talk Series (オンライン)	--
30	Huseyin Rasit	“Revolutionaries, Nationalists, Jihadists: Ideology and Emergent Political	2021年8月	American Sociological Association Annual Meeting, (Online)	--

		Formations”			
31	小杉泰	「イスラーム法源学におけるアラビア語学の役割と法解釈上の意義」	2021年4月	科学研究費補助金・基盤研究(A)「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」イスラーム法研究会「アラビア語とイスラーム法」(オンライン)	--
32	小杉泰	「現代イスラームの宗教文化と活力源」	2021年4月	立命館土曜講座第3331回	--
33	小杉泰	「穏健主流派の苦闘とその展望：ウスूल(法源学)派を中心に」	2021年9月	20年目の9.11を超えて：グローバル社会、イスラーム世界、ポスト・テロ時代を眺望する(オンライン)	--
34	小杉泰	“DX (Digital Transformation) of our Research under the COVID-19 Pandemic: Towards the Islamic Civilizational Renewal, the Reformulation of the Ummah, and Resurgent Islamic Jurisprudence”	2021年10月	11th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2021), Universiti Kebangsaan Malaysia	--
35	小杉泰	“Why the Classical Texts Matter Today: Islamic Jurisprudence in Response to the Needs of Modern Muslim Communities”	2012年12月	19th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu (Hybrid: Onsite + Online)	--
36	ハシヤン・アンマール	「イスラーム福祉制度をめぐる基本概念についてーケルアーン、ハディース、法学における例からー」	2021年9月	科学研究費補助金・基盤研究(B)「アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義期のイスラーム経済再構築」第1回研究会(オンライン)	--
37	ハシヤン・アンマール	“Towards Building New Islamic Welfare Institution Studies: An Initiative from Japan”	2021年10月	11th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2021)	--
38	ハシヤン・アンマール	“Takaful or Islamic Welfare? A Philological, Epistemological, and Research Strategic Inquiry”	2021年11月	New Frontiers of Social Welfare and Market Systems in the Post-Capitalist Era: Islamic Economic Perspectives (Joint International Islamic Economic Symposium)	--
39	ハシヤン・アンマール	“Gold Dinar, Cryptocurrency, and Waqf Crowdfunding: Reflections on Trustability of Fintech Tools from an Islamic Legal Perspective”	2021年12月	学術変革領域研究(A)イスラーム信頼学 国際会議 “Conflict and Harmony between State and Market” (Dec. 10-12)	--
40	円城由美子	「アフガニスタンのタリバン統治」	2022年2月	大阪女学院大学学会 報告	四元章子ほか 3名
41	Takuro Kikkawa	"Rethinking the tribal voices in Jordan: its role in the national politics, the local community, and social movements"	2021年11月	Association for the Study of the Middle East and Africa (ASMEA) Annual Conference 2021 Washington, D.C.	--
42	Takuro Kikkawa	“Redefining tribal society in Jordan: Changed local community, social movements, and economy”	2021年9月	The KAMES-AFMA International Conference (Online)	--
43	Takuro Kikkawa	"Eleven years of the Syrian civil war: the implications of the world's worst civil war for Russian foreign policy and the invasion of Ukraine"	2022年3月	National Chung Hsing University Center for Studies on South Asia and the Middle East: “Conflicts, Wars, and Humanitarian Crises in Ukraine, Afghanistan, and the Greater Middle East” (Online)	--
44	アシャデオノ・フィトリオ	“The Importance of Multidisciplinary Approach for a Sustainable Society”	2021年6月	E-TALKS, 6th Knowledge, Innovation and Collaboration Program (KIC), Department of Environmental Engineering, Trisakti University	--

45	アシャデオ ノ・フィット リオ	“Current Challenges in Indonesian Coffee Cultivation: Adapting to Changes by Rethinking Commodification Approaches”	2021年12月	19th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu (Hybrid: Onsite + Online)	--
46	阿良田麻里 子	「食と宗教 ―グローバル化の中の宗教的食規制」	2022年8月	味の素食の文化フォーラム	--

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	CMEIS Book Launch 『宗教復興と国際政治：ヨルダンとイスラーム協力機構の挑戦』	Zoomによるオンライン開催	2021年5月	40名	立命館大学中東・イスラーム研究センター、科研費新学術領域研究計画研究B02「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」（研究代表者：末近浩太）
2	CMEIS Book Launch 『地中海世界の中世史』	Zoomによるオンライン開催	2021年9月	42名	立命館大学中東・イスラーム研究センター、科研費新学術領域研究計画研究B02「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」（研究代表者：末近浩太）
3	CMEIS Book Launch 『戦争の記憶と国家：帰還兵が見た殉教と忘却の現代イラン』	Zoomによるオンライン開催	2021年11月	38名	立命館大学中東・イスラーム研究センター、科研費新学術領域研究計画研究B02「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」（研究代表者：末近浩太）
4	CMEIS Book Launch 『膠着するシリア：トランプ政権は何をもたらしたか』	Zoomによるオンライン開催	2021年12月	40名	立命館大学中東・イスラーム研究センター、科研費新学術領域研究計画研究B02「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」（研究代表者：末近浩太）
5	(オンラインシンポジウム) 中東・イスラーム研究の課題と展望：ポストコロナ時代へ向けて	Zoomによるオンライン開催	2022年1月	30名	(主催・共催) 立命館大学アジア・日本研究所、立命館大学中東イスラーム研究センター、立命館大学国際地域研究所、京都大学イスラーム経済研究プロジェクト、科研費学術変革領域研究(A)「イスラーム信頼学」計画研究A01「イスラーム経済のモビリティと普遍性」(研究代表者：長岡慎介)、同公募研究A01「イスラーム福祉制度を通じた互助の信頼学：金融デジタル化を用いた寄進の新展開」(研究代表者：ハシヤン・アンマール)、 科研費新学術領域「グローバル関係学」計画研究B02「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」(研究代表者：末近浩太)、 科研費基盤A「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」(研究代表者：小杉泰)、 科研費基盤B「イスラーム金融の新実践における初期規範理論の復権と発展的再構築」(研究代表者：長岡慎介)、 科研費基盤B「アジア・ムスリム諸国の相互互助の新展開：ポスト自由主義期のイスラーム経済再構築」(研究代表者：ハシヤン・アンマール)、 科研費基盤B「現代中東における政治と宗教：「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」(研究代表者：横田貴之)、 科研費基盤B「計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究」(研究代表者：末近浩太)、 NIFUプログラム「現代中東地域研究」京大拠点・第2班「イスラーム中道派研究班」・第3班「イスラーム経済研究班」
6	第1回現代中東研究コロキウム研究会	Zoomによるオンライン開催	2022年1月	40名	(主催) 現代中東政治研究ネットワーク (CMEPS-J)、立命館大学中東・イスラーム研究センター (CMEIS) (共催) 科研費基盤研究(A)「東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補完・篡奪に関する研究」(研究代表者：青山弘之)、 科研費基盤研究(B)「計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究」(研究代表者：末近浩太)、 科研費基盤研究(B)「現代中東における政治と宗教：「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」(研究代表者：横田貴之)、

					科研費基盤研究 (B)「権威主義体制における分配政治の変容とアカウンタビリティ改革：中東諸国の比較研究」(研究代表者：石黒大岳)
7	第2回現代中東研究コロキウム研究会	Zoomによるオンライン開催	2022年3月	54名	(主催) 現代中東政治研究ネットワーク (CMEPS-J)、立命館大学中東・イスラーム研究センター (CMEIS) (共催) 科研費基盤研究 (A)「東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補完・寡奪に関する研究」(研究代表者：青山弘之)、 科研費基盤研究 (B)「計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究」(研究代表者：末近浩太)、 科研費基盤研究 (B)「現代中東における政治と宗教：「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」(研究代表者：横田貴之)、 科研費基盤研究 (B)「権威主義体制における分配政治の変容とアカウンタビリティ改革：中東諸国の比較研究」(研究代表者：石黒大岳)
8	(ウェビナー)「20年目の9.11を超えて：グローバル社会、イスラーム世界、ポスト・テロ時代を眺望する」	Zoomによるオンライン開催	2021年9月		(主催) 日本エネルギー経済研究所中東研究センター、 立命館大学アジア・日本研究所、 立命館大学中東・イスラーム研究センター、 科学研究費補助金・基盤研究 (A)「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」(研究代表者：小杉 泰 (立命館大学)； 19H00580) (共催) 科研費学術変革領域研究 (A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」B02班「思想と戦略が織りなす信頼構築」(研究代表者：山根聡)、 基盤研究 (B)「計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究」(研究代表者：末近浩太)、 基盤研究 (A)「現代南アジアにおけるムスリム社会の多極化の傾向－テロとツーリズム」(研究代表者：外川昌彦)、 基盤研究 (B)「暴力による民主主義の20世紀：トランスナショナルヒストリーの試み」(研究代表者：長縄宣博)

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	末近浩太	"Japanese Professor calls Iran-China partnership epoch-making (Interview)"	Tehran Times	2021年4月19日
2	末近浩太	現代の言葉	『京都新聞』夕刊, 1面, 合計5回	2021年5月～2022年3月
3	末近浩太	「『9.11』不信の世紀が始まった (あすへの考)」	『読売新聞』朝刊, 7面	2021年9月26日
4	末近浩太	「『9.11』から20年：「不信の世紀」超克へ 第三の道を (特集 国際社会の混迷と模索)」	『読売クォーター』2021年秋号, 2021年10月, pp. 38-47.	2021年10月
5	末近浩太	「9.11から二十年目のカブール陥落：私たちは何をどう考えるのか」	『日本再生』第510号, pp. 6-8.	2021年11月1日
6	末近浩太	「激動の中東情勢を読む」	兵庫県阪神シニアカレッジ・国際理解学科	2021年4月20日
7	末近浩太	「中東における「宗教と政治」	兵庫県阪神シニアカレッジ・国際理解学科	2021年4月20日
8	末近浩太	「イスラーム主義の挑戦」	兵庫県阪神シニアカレッジ・国際理解学科	2021年4月26日
9	末近浩太	「イスラームとは何か」	兵庫県阪神シニアカレッジ・国際理解学科	2021年4月26日
10	末近浩太	「激動の中東情勢を読み解くために：「幕末」としての現代史」	国際理解ゼミナール	2021年6月3日
11	馬場多聞	中世イスラーム世界と医学	大阪・京都文化講座オンライン 病との対峙	2021年7月26日
12	山下範久	ジェイソン・W・ムーア『生命の網のなかの資本主義』監訳	東洋経済新報社	2021年9月

13	山下範久	書評『怒りの時代』(バンカジ・ミシュラ)	日本経済新聞	2021年5月8日
14	山下範久	書評『ハロー・ユーラシア』(福岡亮太)	日本経済新聞	2021年11月13日
15	山下範久	書評『疫病の世界史』(フランク・M・スノーデン)	日本経済新聞	2022年2月19日
16	山下範久	講演「覇権の世界史」	朝日カルチャーセンター(中之島教室)	2021年10月
17	山下範久	講演「「人新世」か、「資本新世」か。気候変動と資本主義を考える」	シノドス・トークラウンジ	2021年12月
18	池端蒔子	学問は「あたりまえ」を相対化してくれる処方箋:とある若手中東地域研究者の事例から	金沢大学附属高等学校において卒業生による特別授業(オンライン開催)	2021年12月11日
19	嶋田晴行	アフガニスタンは今-アフガニスタンを知る(講演会)	山口市男女共同参画センター(オンライン)	2022年2月26日
20	嶋田晴行	アフガン女性へ真の支援をタリバン=悪では解決しない/彼らの価値観に寄り添って(報道)	毎日新聞 夕刊	2021年11月25日
21	嶋田晴行	アフガニスタンの現状を理解するために(講演会)	立命館大学国際平和ミュージアム平和教育・研究センター	2021年10月2日
22	嶋田晴行	緊急集会「アフガニスタン問題を考える-イスラームとジェンダーの視点から-」(パネリスト)	科研費基盤研究(A) イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究(代表:長沢 栄治) オンライン	2021年9月13日
23	嶋田晴行	人道支援に立ちはだかるタリバンの脅威(報道)	NHK BSI 国際報道 2021	2021年9月6日
24	嶋田晴行	アフガニスタンを考える-和平交渉の経緯、タリバンは変わるのか、日本の役割(コメンテーター)	JICA 緒方貞子平和開発研究所	2021年9月6日
25	渡邊駿	“Centre-Local Relations in Jordan in the Era of Reform” (Seminar Talk)	Department of Social and Political Sciences Research Seminar, Nottingham Trent University, UK	2021年4月21日
26	渡邊駿	「アメリカ軍の撤退直前、過激派による自爆テロで深まる混乱。緊迫するアフガニスタン情勢を読み解く」(ラジオ出演)	TBS ラジオ 荻上チキ	2021年8月30日
27	渡邊駿	「-アフガニスタン崩壊の衝撃 民主主義とイスラーム、共存共栄めざせ」(雑誌寄稿)	月刊公明	2021年12月
28	アシャデオノ・フィットリオ	“Towards Sustainable Urban Societies: Exploring the Potentials of Urban Agriculture” (ゲストスピーカー)	立命館大学 OIC 国際教育センター主催、AY 2021 Summer OIC Online Program for Short-term International Students	2021年8月25日
29	アシャデオノ・フィットリオ	“Japanese Tea and its Branding: The Case of Uji Tea” (Guest Lecture)	Gastro diplomacy Course, Faculty of Social and Political Sciences, University of Jember	2021年9月23日
30	阿良田麻里子	「食育まんが 異文化を知ろう ハラル食ってなんだろう」監修	「給食ニュース」10月18日号	2022年10月18日
31	阿良田麻里子	連続講座「ベジタリアン・コーシャー・ハラル:宗教や信条による食のタブー」	NHK カルチャー梅田 オンライン講座	2021年6月25日,7月23日,8月27日
32	阿良田麻里子	「①ハラルビジネスとムスリム消費者の食選択」 「②初期投資不要のハラル対応の始め方」	跡見学園女子大学観光経営人材育成講座 「コロナ禍での観光の未来を考える インバウンドのセカンドステージでの課題と人材育成~ジェンダー、異文化理解、ハラル対応~」	①2022年2月15日 ②2022年2月22日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題（カッコ内は代表者名）	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	末近浩太	「計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究」	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	代表者
2	末近浩太	「東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補完・篡奪に関する研究」(青山)	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	分担者
3	末近浩太	「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済：過激派と対峙する主流派」(小杉)	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担者
4	末近浩太	「紛争地域における「記憶」と「安全保障化」のメカニズム——「東地中海」を事例に」(月村)	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担者
5	末近浩太	「現代中東における政治と宗教——「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」(横田)	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担者
6	末近浩太	「空間・暴力・共振性から見た中東の路上抗議運動とネイション再考：アジア、米との比較」(酒井)	基盤研究(A)	2021年4月	2024年3月	分担者
7	末近浩太	「グローバル関係論の時間論的基礎付けのための比較理論研究」(芝崎)	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	分担者
8	末近浩太	「中東の非国家武装主体の越境的活動に関する比較研究」(高岡)	基盤研究(B)	2021年4月	2023年3月	分担者
9	末近浩太	「関係性を中心とした融合型人文社会科学のための国際学術ネットワークの確立と活性化」(酒井)	新学術領域研究グローバル関係学 国際活動支援班(酒井)	2016年6月	2022年3月	分担者
10	馬場多聞	「イスラーム共同体の理念と国家体系」(近藤)	学術変革領域研究(A)	2020年11月	2025年3月	分担者
11	小杉泰	「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済：過激派と対峙する主流派」	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	代表者
12	鳥山純子	「2011年革命後エジプト都市部における「ろくでなし」社会研究」	若手研究	2020年4月	2024年3月	代表者
13	鳥山純子	「ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編」(齊藤)	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化B)	2019年10月	2024年3月	分担者
14	鳥山純子	「感情労働の地域・階級間比較にみる「近代家族」、フェミニズム思想の越境性とその限界」(中沢)	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担者
15	鳥山純子	「イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究」(長澤)	基盤研究(A)	2020年4月	2024年3月	分担者
16	池端蒔子	「現代イスラーム世界の分断と統合：グローバル法学による合意形成と宗派対立の克服」	特別研究員奨励費(PD)	2019年4月	2022年3月	代表者
17	黒田彩加	「民主化失敗以降のアラブ政治変動と穏健派イスラームの国際的思想構築」	若手研究	2020年4月	2023年3月	代表者
18	黒田彩加	「アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義機のイスラーム経済再構築」(アンマール)	基盤研究(B)	2021年4月	2025年3月	分担者
19	嶋田晴行	「「難民」問題と援助の関係性-アフガニスタン人を例に」	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表者
20	山下 範久	「グローバル関係論の時間論的基礎付けのための比較理論研究」(芝崎)	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	分担者
21	渡邊 駿	「現代君主制における制度的社会エリート統制：モロッコ・ヨルダ	若手研究	2020年4月	2024年3月	代表者

